

2026年
1月

患者さんの呼び出しが スマホに変わります

現在
呼出受信機



2026年1月から

スマホ



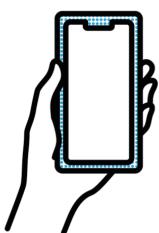
貸出スマホでの受診の流れ

1 受付



再診受付機で受付
(診察券使用)

2 スマホ貸出



各階の貸出コーナーで
スマホを受け取り各受付へ

3 診察・検査



スマホで呼び出し

4 支払



お支払い時に
スマホを返却

Myスマホでの受診の流れ

※「Myスマホ」を使用するにはご自身のスマホにアプリのインストールが必要です。

1 受付



再診受付機で受付 (診察券使用)
スマホ内のバーコードでも受付可

スマートフォン貸出コーナーに
寄らずに各受付へ!

2 診察・検査



スマホで呼び出し

3 支払



クレジットカードを登録すれば、
計算を待たずに
そのまま帰宅も可能!



新年のご挨拶

病院長 安達 伸生



あけましておめでとうございます。みなさま健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

2025年は初めて女性の内閣総理大臣が誕生した年と記憶されることでしょう。また、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマにした大阪・関西万博が開催され、展示や催しを通じて、サブテーマだった「多様で心身ともに健康な生き方」「持続可能な社会・経済システム」を意識された方も多かったのではないでしょうか。被爆80年の節目にあたり、現在も続く被爆者と家族の方の苦難と核兵器の恐ろしさ、平和の大切さについて改めて考えた年でもありました。

広島大学病院は昨年、国内16番目の臨床研究中核病院として、厚生労働大臣の承認を受けました。革新的な医薬品や医療機器、医療技術の開発に必要な臨床研究・治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う病院と位置付けられています。臨床研究や医師主導治験に興味のある若手医師が集まることにもつながると、受け止めています。

私は整形外科医として、多くのスポーツ選手の治療に携わってきました。本院から再起を果たした選手の活躍は何よりの喜びです。サンフレッチェ広島はJリーグカップで優勝し、胸に5つ目の星を掲げました。広島東洋カープはシーズン後半から急失速でしたが、新井貴浩監督の続投が決まり、若ゴイの奮起が期待されます。広島ドラゴンフライズも2年ぶりの優勝を目指して、シーズン真っただ中です。バレーボールの広島サンダーズは、プロリーグ化が近づき、地域も盛り上がっていくことでしょう。

観戦だけでなく、シニア世代を含め多くの人がスポーツを楽しみ、健康増進を図っています。体をケアしながら、適度に体を動かすことは、ストレス解消とともに、生活習慣病の予防にもつながります。広島大学病院スタッフはチームプレーで、地域の皆様の健康を支え、信頼される医療機関として地域の皆様とともに歩んでいきます。本年もご支援とご協力をお願い申し上げます。

皆様にとって実り多く、希望に満ちた年となりますよう祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。

(DOCTOR'S MAGAZINE撮影)



2026年1月 外来患者さんの呼び出し方法が、 スマホに変わります!



広島大学病院では2026年1月から、電子カルテシステムの更新に伴い、外来患者さんの呼び出し方法が変更になります。

受診の流れに大きな変更はありませんが、再診受付機、自動精算機が更新され、従来の呼出受信機からスマホでの呼び出しに変更になります。

病院が貸し出します「貸出スマホ」を使用する方法とご自身のスマホ（Myスマホ）にアプリ「wellcone（ウェルコネ）」をインストールして使用する方法の2種類があります。

新しい再診受付機

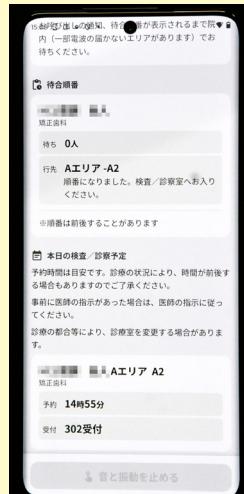
貸出スマホ

再診受付機での受付後、各階エスカレーター付近にある貸出スマホコーナーで貸し出します。「貸出スマホ」を使用される場合は、診察・検査の受付前に貸出スマホコーナーにお立ち寄りいただく必要があります。当日の診察がすべて終了したら「貸出スマホ」は、自動精算機横にある返却ボックスへ返却してください（支払いのない方は料金計算窓口で回収します）。

Myスマホ

再診受付機で受付後、貸出スマホコーナーに立ち寄らず、直接診察・検査の受付に向かえます。

このほか「Myスマホ」を使用すると、料金計算を待たずに帰宅できます（クレジットカードの登録が必要）。



スマホの案内画面の例

アプリ「ウェルコネ」は、右のQRコードを読み取るか、アピリストアで「ウェルコネ」と検索するとダウンロードできます。

アプリについての詳細や、インストール方法については、再診受付機向かいに設置している院内アプリサポートブースやプラスメディサポートデスクでご案内しますので、お気軽にお問合せください。



全機能無料
インストールは
こちらから！

院内アプリサポートブース

場 所 診療棟1階 再診受付機向かい

時 間 8:30～16:30 (平日)

プラスメディサポートデスク

TEL 0120-120-075
(9:00～18:00 年末年始を除く)

MAIL support@plus-medi-corp.com



電子カルテシステムの更新後は、操作に不慣れなことや予期せぬシステムトラブル等により、通常より、受付、検査、診察、会計の待ち時間が長くなる等、ご不便、ご迷惑をおかけすることがあるかと存じますが、安心安全な病院運営のためご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

スマホ受付のリハーサル風景

ニュースアップ

福島への医師派遣に感謝「引き続き支援を」 広島大学病院に来訪

福島県と福島県立医科大学の6人が10月8日、広島大学病院を訪れ、福島県の「ふたば医療センター」への医師派遣に感謝を述べ、引き続き支援を求めました。

福島からは、福島県の挾間章博病院事業管理者、ふたば医療センターの谷川攻一センター長、福島県立医科大学の河野浩二理事兼副学長たち。広島大学の田中純子理事、広島大学病院の安達伸生病院長らが迎えました。挾間病院事業管理者は「復興に欠かせない医療支援を続けていただき、感謝しています」とお礼を述べました。

診療実績について、2024年度の外来患者は約5200人で7年前の開設時から2倍に増え、高齢者と復興関連の50、60代が多いほか、スポーツイベントの開催により19歳以下の患者も増えてきている、と報告しました。

広島大学病院から福島へは2016年10月から内科系の医師を、3ヶ月交代を基本に、今月までに延べ37人を派遣。ふたば医療センター附属病院などで診療に当たっています。また、救急医を毎月1週間派遣しています。



エジプトの大蔵閣下が広島大学病院視察 ダビンチ5に関心

エジプト・アラブ共和国のアブデル・ラティーフ教育・技術教育大臣やハニー・ヒラール元高等教育・科学研究大臣閣下御一行が10月27日、広島大学病院を視察しました。留学生や医師の受け入れなど交流促進や、最新の手術支援ロボットの見学が主な目的です。

臨床管理棟で面会し、安達伸生病院長が「2019年から6人のエジプト人医師を受け入れ、現在は2人の留学生が生薬学やウイルス学を学んでいます。今後も交流を深め、協力関係を築いていきたい」と歓迎しました。アブデル・ラティーフ大臣は「エジプトでは日本式の教育を始めています。医者になりたいという子どもたちも多く、留学生の受け入れが増えていくよう期待しています」と求めました。

続いて、国内6施設で最初に導入された手術支援ロボット「ダビンチ5」を、日向信之教授が案内しました。一行は、操作具合や鮮明な画像に見入り、「将来は外科医以上の手術ができますか」「人工知能が入っていますか」などと質問しました。「エジプトに持って帰りたい」と話すと、笑顔が広がりました。



広島JRATが広島県との連携強化 協定結び、災害時のリハビリ支援拡充へ懇談

広島大学病院リハビリテーション科の三上幸夫教授が代表を務める、広島災害リハビリテーション推進協議会(広島JRAT)は10月31日、広島県庁に北原加奈子健康福祉局長を訪ね、連携と活動強化を申し合わせました。広島JRATと広島県は2025年3月27日、災害に備えて協定を締結しています。

三上代表たち広島JRATのメンバー11人が訪れ、一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)の栗原正紀代表たちが立ち会いました。三上代表は「災害関連死を防ぎ、被災者の自立を進めるため、広島県さらに他団体との連携を深め、支援態勢を整えたい」とあいさつしました。北原局長は「平時からの取り組みも強化したい」と応えました。

国内では大規模災害が相次いでおり、特に高齢の被災者の生活機能低下や災害関連死が社会問題となっています。広島JRATは2017年に発足し、熊本地震、西日本豪雨災害、能登半島地震などで活動してきました。他の災害医療チームとの連携、県民への広報活動、地域での防災訓練にも積極的に参加していく考えです。





看護師 プラス

看護師の業務が拡大しています。「専門看護師」「認定看護師」は高度化・専門化が進む医療現場でレベルの高い看護を実践できる看護師に認められた資格です。いずれも日本看護協会が認定しています。

専門看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得したのちに、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、13分野。認定看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、21分野です。それぞれの資格を持った看護師がどんな活動をしているのか、紹介していきます。



[認定看護師]
クリティカルケア
内山 直子

01 どんな仕事？

集中治療室や救急病棟、救急外来で経験を積み、救急看護認定看護師の資格を取得しました。病院前救護、病院内、災害現場など多様な状況下で、救急・重症患者さんに対して専門的な看護ケアを提供しています。さらに質の高い看護を目指して特定行為研修を受講し、クリティカルケア認定看護師として、医師や看護師と連携し、PICC挿入を含む高度な処置やチーム医療を行っています。患者さんの「何か変」という兆候を早期に察知し対応できるよう、スタッフ向けの研修や教育にも力を入れ、現場全体の救急対応力の向上に貢献できるよう日々活動しています。



02 きっかけは？

「人を助ける」「どの分野でも通用する力を身に付けてみたい」という思いから、救急看護に携わってきました。ある日、普段通りの日常を過ごしていた方が突然の事故に遭い、救命に至らなかった事例を経験しました。患者さんを救えなかつた無念さや、ご家族が深い悲しみの中で過ごされている姿に触れ、「看護師として何かもっとできることがあったのではないか」と強く感じました。この経験が、認定看護師となり専門性を高め、多くの命を守るために力を尽くしたいと思うようになったきっかけです。

03 将来へ向けて

クリティカルケア認定看護師として、患者さんの命と真摯に向き合い、患者さんご本人だけでなくご家族も含めて支えることで、その人らしい生活や意思を尊重した看護を提供していくたいと考えています。また、院内外の他職種と連携を深め、地域全体で切れ目のない医療・看護を提供できる体制づくりにも積極的に関わっていきたいと思っています。



[認定看護師]
小児プライマリケア
藤田絵津子

01 どんな仕事？

小児プライマリケア認定看護師は病気の子どもの看護だけでなく、全ての子どもが適切な環境のもとで養育されるよう働きかける役割も担っています。当院では重症度や緊急性度の高い子どもを受け入れていますが、子どもを診る時には発達段階を考慮したアセスメントや月齢に応じた器材のサイジングが必要であるため、子どもに苦手意識を持つスタッフは少なくありません。適切な看護ケアを迅速に提供できるよう環境を整えたり教育に携わることが自分の役割の一つだと考えています。



02 きっかけは？

小児科病棟とクリティカル部門での経験を活かせる資格として小児救急看護認定看護師を目指し、小児看護実践能力の拡充のために貢献できたらと思いました。その後、より実践的な知識と技能の獲得のために特定行為研修を修了しました(特定行為研修を修了することで資格名は小児プライマリケア認定看護師に変更されます)。

03 将来へ向けて

小児看護について学べる場は少なく、知識と技術の保持が難しい状況にあります。このため、今後は更に組織の小児看護実践能力の底上げと後輩育成に力を注いでいきたいです。小児看護に興味を持ってもらい、子どもにとっての最善のために一緒に尽力してくれる仲間を増やしていけたら嬉しいです。



診療科最前線

「遺伝子診療科」

(診療科長:檜井孝夫教授)



▶ 診療科の特徴

遺伝子診療科では、腫瘍領域のがんゲノム医療や遺伝性腫瘍症候群をはじめ、成人領域では遺伝性の神経・筋疾患、循環器疾患、代謝疾患、生殖・周産期領域では出生前診断、小児領域では先天異常症候群や未診断疾患などに 対応しています。ゲノム解析技術の進歩による遺伝子関連検査のコストダウンと、ゲノム情報に基づいた発症リスクの評価や治療薬の開発によって、ほぼ全ての医療分野においてゲノム医療が臨床応用されています。各診療科と連携して遺伝カウンセリングを行い、遺伝に関わる悩みや不安、疑問などを持たれている方に、科学的根拠に基づく正確な医学的情報を分かりやすくお伝えし、理解を助けます=写真。その上で、自らの力で医療技術や医学情報をを利用して問題を解決していくける

よう、心理面や社会面も含めた支援を行っています。



▶ 得意分野

当院は「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、中国四国のがん診療連携拠点病院11施設と連携し、エキスパートパネルによって個別化した治療法を提案しています=写真。また、未診断疾患イニシアチブ(IRUD)拠点病院として原因不明の病気の診断にも対処しています。遺伝性の神経・筋疾患、致死的不整脈および難聴でも多くの診療実績があり、悪性高熱症や結節性硬化症では包括的診療グループで対応しています。2021年度より大学院に遺伝カウンセラー養成コースを開設し、認定遺伝カウンセラーの人材育成を行っています。



▶ 最新のトピックス

2025年3月、造血器腫瘍を対象としたがんゲノム検査「ヘムサイト」が保険適用となり、これで固形がんを合わせた全てのがんが保険適用の対象となりました。遺伝性腫瘍症候群や遺伝性循環器疾患では、多遺伝子パネル検査(Multi-gene panel testing, MGPT)によって、80~100種類の原因遺伝子の解析を約10万円でできるようになりました(自費診療)。2023年に「ゲノム医療推進法」が国会で成立し、先月、その基本計画が閣議決定されました。これによって、良質かつ適切なゲノム医療を誰もが安心して受けられる体制が整備されることが期待されます。お互いのゲノムの違いを個性として尊重しあえるよう、私共も社会におけるリテラシーの醸成に貢献していきたいと思います。

催しのご案内

(2026年1月～3月)

がん治療を支える患者サロン

1月15日(木) 13:30～14:30

がんの治療による外見の変化とアピアランスケア

会場：臨床管理棟3階 3F2会議室/zoom

講師：がん看護専門看護師 山口真由美

2月19日(木) 13:30～14:30

がんと食事について

会場：臨床管理棟3階 3F2会議室/zoom

講師：栄養管理部 管理栄養士 角田麻子

3月19日(木) 13:30～14:30

抗がん剤治療中の副作用による痺れ、予防とケア

会場：臨床管理棟3階 3F2会議室/zoom

講師：がん化学療法看護認定看護師 平木 和美

患者おしゃべり会

1月27日(火) 13:30～14:30 3月24日(火) 13:30～14:30

会場：いずれも診療棟2階 健康情報プラザ

申し込み・問い合わせ：がん相談支援センター ☎082-257-1525

肝臓病教室

1月19日(月) 15:00～16:00

動いて守る肝臓の健康～今日からできる簡単エクササイズ～

講師：診療支援部 リハビリテーション部門 理学療法士 岩城 大介

会場：臨床管理棟3階 大会議室 申し込み：不要(参加費無料)

動きやすい服装で水分補給の準備を

問い合わせ：肝疾患相談室

☎ 082-257-1541 (10:00～12:00 13:00～16:00)

